

市民活動サポートセンター運営協議会 第23回団体支援部会報告書

〈開催日時〉 2024年5月9日 午後1時30分～午後3時30分

〈開催場所〉 市民活動サポートセンター

〈出席者〉団体支援部会： 廣田委員、柿崎委員、齊藤委員、森委員、田久保
市民協働課： 矢田係長

〔配布資料〕 1. 第22回団体支援部会報告書 2. 第23回団体支援部会スケジュール表
3. 資料4～9は第22回配布資料

〈議事概要〉

1. 22回の部会の打合わせ内容確認

2. 第7期サポートセンター運営協議会団体支援部会（仮称）に対して申し送り事項について

① プロボノ現状確認と今後の活動

昨年度は各々のHPの再構築を希望している2団体がプロボノを利用し、その効果を実感していた。令和5年2月に実施した市民活動サポートセンター登録団体アンケート（※以下、アンケート）結果ではHP作成以外にも資金調達、人員確保等の運営上の課題を抱えていることから、プロボノは有効な手段となるため今後も引き続きプロボノ実施にむけ「プロボノ説明会」を行いPRすることを希望する。また、今後の展望としては、プロボノを継続することにより団体間でのコミュニティネットワークが形成（例：ミニプロボノ）され、団体間が補完しあえるような関係性構築の可能性を秘めている。ただ、その実現のためには、各団体が自らの強み弱みを理解し、情報共有できるデータベースが必要であり、現存の市民力発信サイトで活用可能か検討が必要となる。

② 市民大学との連携について

6年度も2回のマッチングを実施予定。ボランティアの使命、船橋市の現状や取組みを学ぶ機会としたいと担当者の弁。6年度も市民協働課はボランティア養成学科での講義及び市民活動フェアへの参加も授業の一環とし、いきいき学部共通講座での講義も予定している。ボランティアへの呼びかけと共にプロボノワーカーへの案内の機会として有効な場であることから、引き続き市民大との良好な関係づくり、連携は重要である。

③ スキルアップ（＋交流会）研修

アンケートから運営にあたりHP作成とともに資金調達、組織運営等希望が寄せられており、スキルについて研修の必要性がある。また、単にスキルアップだけではなく、他団体との交流（情報交換）が生きた教材となることからスキルアップ研修の際、後半に参加者間が交流する時間を設定すると良いとの意見が出された。

④ 頼りにされる相談窓口を目指して～相談窓口の在り方について～

- ・相談者から頼りにされるために、相談者の情報の蓄積や相談体制の強化が必要
- ・相談窓口の方向性、機能の整理等の再構築し、相談者の期待に添えることができるようにしたいとの思いから、令和6年度にも引き続き検討してほしいと要望があった。

《まとめ》

第6期の2年間は、地域活動を行っている団体が活発に活動できるよう支援を行うことを目的に検討を重ねてきた。そのためアンケートを実施し現状を知り、認定NPO法人藤沢市民活動推進機構手塚さんのご協力を得て分析を行い、課題解決方法として「プロボノ」という武器を持つことができ、今後へのステップとなる2年であった。7期は6期をベースとし「市民力」向上の一旦を担う団体を支援し、一層充実した活動につなげてゆくことを期待する。